

# The JIKKEI

VOL. 30

2018 / WINTER



第一国立銀行(渋沢史料館所蔵)

癒して、今更ながら先生の明晰を感謝したりき」となる。こうした高木の優れた医療への尊敬と、恩返しと云う意図からか、有栖川宮妃殿下のご尽力により社団法人慈恵会が発足した時に、渋沢栄二氏は経営全般に亘って懸命に支援するこ  
**渋沢栄二**  
ととなった。



渋沢栄二氏は日露戦争が始まった明治37年の11月にインフルエンザにかかり、やがては中耳炎にもかかる。さらには肺エソの初期と診断され、さすがの渋沢氏も死の影を意識したという。ところが、学祖・高木兼寛は、断固として悲観論を退け、「病気のかならず回復すべきを確言せられたり。このときも果たして快



# CONTENTS

## 巻頭言

### 地上14階建ての2号館が竣工

伝統を継承し新たな歩みを進める

学校法人慈恵大学 理事長 栗原 敏

2

## Feature

### Nature Communicationsにアクセプトされた研究成果紹介 ネフロン前駆細胞から腎臓再生に成功

～臨床応用に向けた最終段階へ～

腎臓・高血圧内科 教授 横尾 隆

3

### 西新橋キャンパス再整備プロジェクト

2号館が竣工し、新外来棟(仮称)建築工事始まる

西新橋建築準備委員会委員長 理事 浅野 晃司

7

## Ongoing

### 教育 慈恵医大における教育をさらに充実させるために Johns Hopkinsから学ぶべきこと

心臓外科 教授 坂東 興

9

### 研究 行動を司る脳のフロンティアに挑む

臨床医学研究所 教授 渡部 文子

11

### 診療 教職員向け医療連携フォーラムへの取り組みについて

副院長(医療連携担当) 安保 雅博

13

## Column

### 福島統教授(教育センター)が 第49回日本医学教育学会総会にて、学会賞「日野原賞」を受賞

教育センター 教授 中村 真理子

15

### King's College London Florence Nightingale Faculty of Nursing & Midwiferyとの交換留学

国際交流センター運営委員 看護学科国際交流委員長 内田 満

16

## Nursing

### 看護 フローレンス・ナイチンゲールの教えを 臨床に根づかせることを目指して

附属病院看護部 部長 小澤 かおり

17

## News Flash

(慈恵イベント)2017.7～2017.12 / 平成30年(2018)主な行事予定表 18

- 7月 看護学科オープンキャンパス
- 8月 医学科オープンキャンパス
- 9月 第3回慈恵医大・東京理科大合同シンポジウム
- 10月 第134回成医会総会「成医会優秀ポスター発表賞」
- 11月 港区災害医療合同訓練
- 11月 ファブール祭
- 11月 医療安全推進週間
- 12月 戴帽式
- 12月 新外来棟(仮称)地鎮祭

## Notice

23

- 大学広報(行事/公示/学事/訃報/東京慈恵会公報) ▪ 補助金・助成金
- 生涯学習・公開セミナー等 ▪ 寄付のお願い ▪ ガバナンス(行動憲章/行動規範) ▪ 医療連携窓口のご紹介



巻頭言 ●

# 地上14階建ての2号館が竣工

## 伝統を継承し新たな歩みを進める

本院外来棟建築に伴う西新橋キャンパス再整備計画は順調に進捗し、地上14階建ての2号館が竣工しました。平成29年7月から8月にかけて臨床講座と教授室、理事室、会議室などが2号館に移転しました。これまで、離ればなれだった臨床講座の医局と教授室が一体となり、講座制の長所が発揮されることを期待しています。また、何よりも免震構造の2号館に移転したことで、教職員が安全・安心な環境で働くことができるようになり安堵しています。一階の講堂は、災害時に700人の被災者を収容することができ、東京都から要請されている災害医療に対応できます。現在、2号館に隣接して新病院（小児・周産期センター）の建築が進捗中で、今年10月には竣工予定です。

大学本館と大学2号館は解体され、その跡地に外来棟が建てられます。多くの同窓生の心の故郷である大学本館の解体には特別な思いがあります。毎日、少しずつ取り壊される本館を見ていると、様々な出来事が駆け巡り、“すべてのものは移りゆく、怠らず努めよ”という教えを実感させられます。時代が変わり建物が変わっても、高木兼寛先生の医学・医療に対する理念を継承していくことが、我々に求められていることを忘れず、日々、励みたいと思います。

このような、建築計画を進めることができるのは、これまで諸先輩が努力して築いてきた本学の基盤があるからだ改めて実感します。関東大震災、第二次世界大戦、バブル経済、リーマンショックなどの社会的困難を乗り越え、特にこの10数年間に築いた財政基盤の上に、建築計画

が立てられていることを再認識し、これまで慈恵を支えてきた先人に感謝しなくてはならないと思います。我々は、患者さんをよく診（看）るという、医療における学祖の精神を忘れず、日々、怠りなくより良い確かな医療を実践し、常に、謙虚に学ぶ姿勢を大切にすることが肝要です。

本号では、腎臓の再生医療に関する研究成果が取り上げられています。病に苦しむ患者さんを救う研究が一層進捗することを願っています。高木兼寛先生は脚気の原因が栄養の偏りにあることに気づき、海軍の兵食を従来の白米が多い日本食から、肉などのたんぱく質が多い洋食に改善することによって、海軍から脚気を駆逐しました。ビタミンB<sub>1</sub>が発見される30年も前のことでした。当時、脚気が栄養の偏りによってもたらされるという、脚気栄養欠陥説は日本では受け入れられませんでした。外国では高い評価を受けました。食事を改善することによって、多くの人が脚気に罹患することなく助かったのです。臨床現場における問題を解決する研究を行うことは、本学の大きな使命です。研究心を忘れずに真理の探求とともに、臨床応用を目指した研究が振興されることを祈念しています。新しい施設で新たな歴史を刻んでいきたいと思っています。



学校法人慈恵大学 理事長  
栗原 敏



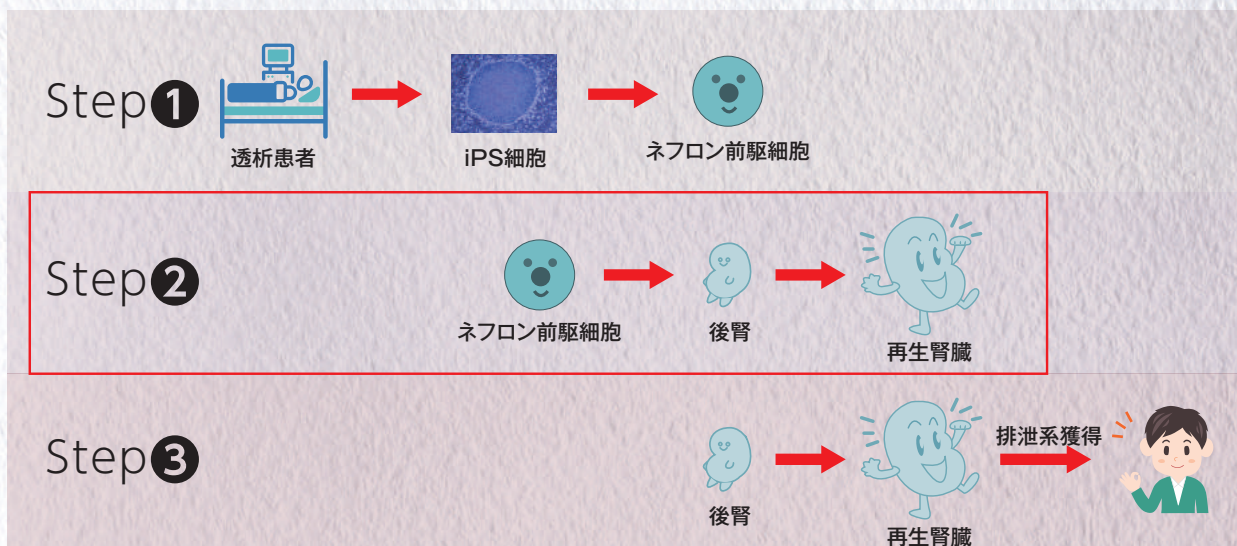
# ネフロン前駆細胞から 腎臓再生に成功。

## 臨床応用に向けた最終段階へ



現在わが国では、腎機能が廃絶する腎不全に陥っても透析または移植により生命維持が可能です。特にドナー不足の現状ではほとんどの腎不全患者が透析に依存した生活を送ることになります。この透析患者は高齢化や糖尿病の増加により爆発的に増えており、現在33万人が透析を行なっています。透析患者は食事や生活の制限を強いられ著しいQOL(生活の質)の低下が余儀なくされます。また透析関連医療費は一人当たり年間約500万円を超え、その年間総額は1.4兆円以上にのぼり国庫に大きな負担をかけています。一方海外に目を向けると、高額な透析が受けられない貧しい国々で200万人以上の人々が腎不全で亡くなっており新たな国際問題に発展しています。この様な現状から、腎臓・高血圧内科の腎臓再生研究グループでは、以前から腎臓を臓器としてまるまる『再生』する腎臓再生に取り組んできました。





### ① 研究の経緯

#### ネフロン前駆細胞から臓器を体内に作ることをラットの体内で成功

腎臓再生には、①患者由来のiPS細胞からネフロン前駆細胞（腎臓の芽）を作る、②ネフロン前駆細胞から尿を作る臓器を体内に作る、③尿を体外に排泄させる経路を作る、の3ステップがあると考えられます（上図参照）。ステップ①についてはiPS細胞研究が進んでいる日本では多くの研究者が効果的な方法を編み出してきました。しかし、ステップ②③についてはほとんど研究が進んでいませんでした。しかし当グループでは15年以上前からこの二つのステップについて研究を進めてきました。すでにステップ③については効果的なシステムを開発し2015年に報告しております（引用1）。したがってステップ②が残っている状況でした。当グループは、これまでヒトの骨髄由来幹細胞とラットの胎仔を用いて、ラットの体内で尿を生成するヒト細胞由来の腎臓を作ることに成功しました（引用2,3）。しかし、ヒトを対象とした臨床応用には十分対応できずシステムの改良が必要と考え、研究を進めていました。





## ② 研究の内容

### 山中修一郎助教が 中心で進められた研究成果が Nature Communications誌に

人は一つの受精卵が分化してできるので、腎臓も受精卵から出ています。発生の段階で受精卵は腎臓前駆細胞に分化するだけでなく、この前駆細胞がうまく腎臓に分化できるような場(ニッチ)も作ります。このニッチの中の前駆細胞は腎臓の芽となりやがて成熟した腎臓になります。このニッチに外来の前駆細胞を注入することにより腎臓まで分化できないか検討しました。その結果できることが確認されたのですが、もともとニッチ内には既存の前駆細胞がいるため、2系統の前駆細胞からできたキメラ腎臓ができてしまいます。そこで遺伝子操作により薬剤存在下で既存の前駆細胞を除去することにより外来性の前駆細胞のみニッチ内で成熟できるシステムを開発したところ、100%外来性のネフロン前駆細胞由来のネフロンを樹立することに成功しました(下図参照)。さらにこれを生体内に

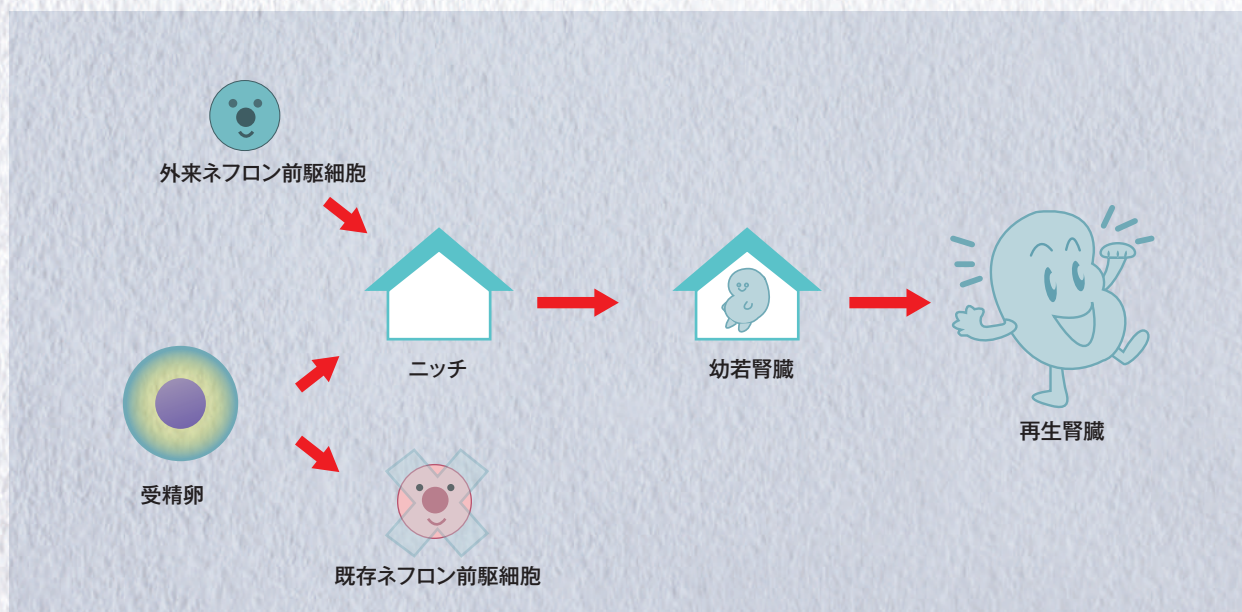
移植することにより血管を誘導することが可能となり、腎機能獲得も確認できました。また、倫理的にヒト胎仔のニッチを使用することはできませんので、ヒト臨床を想定し異種間でもシステムが作動するか確認したところラット-マウス間で腎臓再生が可能となることがわかりました。

本技術は、異種胎仔のニッチを使用することにより外来性のネフロン前駆細胞より腎機能を獲得した臓器まで分化できることが示され、上記のステップ②が完成したことを意味します。この研究成果は当グループの山中修一郎助教が中心となって進められたもので、Nature Communications誌に掲載されました(引用4)。

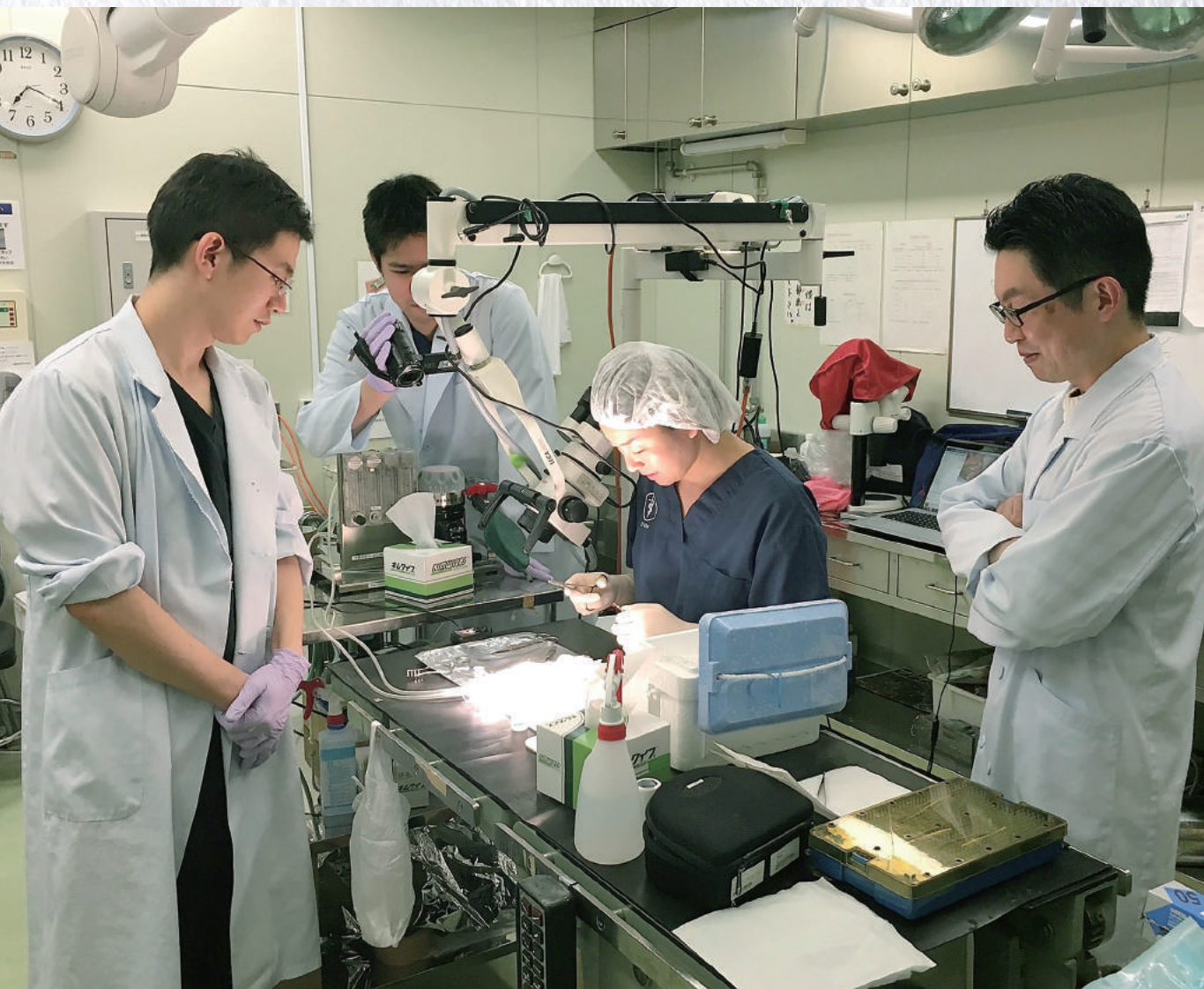
## ③ 今後の展望

### ラットとマウスでの実験の成功から ヒトiPS細胞由来 ネフロン前駆細胞における証明へ

本研究の成功により我々の設定していた3つのステップ全てが揃ったこととなります。最終段階としては、これらの3つをすべてヒト環境下で完遂する







ことになります。つまり今回の成功はラットとマウスでの実験に基づきますので、ヒトiPS細胞由来ネフロン前駆細胞でも証明する必要があります。その上でいよいよヒト臨床試験へのステップに進めると考えています。本研究には、本学再生研究室(岡野James洋尚教授)、明治大学農学部(長嶋比呂志教授)、慶応大学臓器再生医学寄附講座(小林英司教授)、北里大学獣医学部(岩井聡美講師)、日本大学工学部(村山嘉延准教授)など、多くの研究グループが参画し進めてきました。今後もこのチームで力を合わせて1日も早く透析患者さんに届けたいと思っております。

#### 【引用文献】

##### (引用1)

Yokote, et al. Proc Natl Acad Sci USA 2015; 112 (42): 12980-12985

##### (引用2)

Yokoo T, et al. Proc Natl Acad Sci USA 2005; 102 (9): 3296-3300.

##### (引用3)

Yokoo T, et al. J Am Soc Nephrol 2006; 17 (4): 1026-1034.

##### (引用4)

Yamanaka S, et al. Nat Commun (in press)



## 特集2

# 西新橋キャンパス 再整備プロジェクト

2号館が竣工し、新外来棟(仮称)  
建築工事が始まる



2号館・新病院(仮称)建設用地 2017.6月2号館竣工時



新病院(仮称)

2号館

南面(本館・E棟側)外観イメージ



新病院(仮称)

2号館

北面(新虎通り側)外観イメージ



2号館北側外観

### 【計画概要】

主要用途	病院・大学
階数	病院: 地下2階 / 地上6階 大学: 地下1階 / 地上14階
構造	病院: 柱PC / 梁S免震 大学: 柱CFT / 梁S免震

最高高さ	62.57m
敷地面積	5,383.22㎡
建築面積	3,627.04㎡
建蔽率	67.38% <80%
延床面積	31,442.01㎡
容積率	531.65% <600%
病床数	143床



講堂



会議室



# 2号館竣工、臨床医局ならびに研究室が移転

西新橋キャンパス再整備プロジェクト最初の建造物として、平成29年6月末に2号館が竣工し、7月から8月にかけてすべての臨床医局ならびに研究室が移転しました。また、大学本館・旧図書館等の諸室は既存棟へ移転しております。9月からは新外来棟(仮称)建築に向けて大学本館・旧図書館・大学2号館解体工事が始まり、12月13日の地鎮祭の後、新外来棟(仮称)建築工事が開始されています。今号では、この度竣工した2号館を中心にご紹介します。

## 1) 2号館建築概要

地下1階／地上14階 延床面積：16,118.94㎡で、平成31年に竣工する新病院[小児・周産期医療センター](仮称)とは一体の建物になります。(左頁下計画概要参照)

## 2) フロア紹介(断面図)

### 1階:講堂

入学式・卒業式・新入職員就任式等の大学行事には最大で700人収容可能です。また、机を設置すると240名着席できる他、試験、学会、研究会の使用も想定し、講堂内を3分割することも可能です。また、パンデミック時の講堂は医ガス対応、講堂付近の会議室・倉庫は陰圧・医ガス対応となっており、診療室として使用可能です。さらに災害時には、帰宅困難者を一時収容することも想定して設計されています。

### 2階:システム課等

### 3階:役員室・会議室

高木会館5階に配置されていたA・B会議室を移設しました。室名呼称はそのままに、理事会等を開

催するA会議室、教授会議・診療部会議・評議員会等のメンバーの多い会議はB会議室で開催し、プロジェクタやモニター等のAV機器を常設しています。お客様をお迎えする機会の多いフロアのため、他のフロアと異なり、壁紙は落ち着いた色調となっています。

### 4階・5階:臨床ラボ等

これまで臨床系の各医局単位で使用していたラボを集約し、ラボ同士の交流を深め共同研究しやすい環境を整備するとともに、効率的な運用管理ができるようにしました。現在、19診療科が使用しています。なお、1ユニット約40㎡(機器室と実験台のセット)です。0.5ユニットから使用可能で有料貸与となっています。

### 6階~14階:臨床医局

各医局間の区切り(壁)は、将来の教室新設等に伴う増減(可変)に備えるため移動、増設、撤去可能なシステム天井を採用し、一定の間隔で空調や照明等の設備が埋め込まれています。床は電源や各種ケーブルをタイルカーペットの下に配線し、各医局内の

機器・什器の配置に合わせてOAタップ(コンセント)を取り出せるOAフロアとなっています。また、医局と教授室を隣接配置し、各階に2~3室の会議室を設けています。会議室は各科のカンファレンスや教職員のミーティングに利用でき、電子カルテの参照が可能です。

## 3) 再整備プロジェクトの全体像

新病院(仮称)の建物は平成30年10月末に完成し、平成31年1月には小児・周産期部門に先行して2階に新橋健診センターがリニューアルオープンする予定で、現在中央棟1階にある健診センター跡地は救急部門に改修されます。

新外来棟(仮称)ならびに小児・周産期を含めた新病院(仮称)のフルオープンには平成32年1月の予定で、その後E棟の改修や外溝工事を一部残し、当プロジェクトは概ね終了することになります。

その間、学内外の皆さま方にはキャンパス内の移動等含め、御不便をおかけいたしますが、御理解のほどよろしく願います。

Ongoing  
**01**  
教育



東京慈恵会医科大学  
心臓外科  
教授 **坂東 興**



図1: 1890年設立当初のJohns Hopkins Hospital

# 慈恵医大における教育をさらに充実させるために Johns Hopkinsから 学ぶべきこと

William Baumgartner教授の講演会より



去る2017年9月11日、Johns Hopkins Hospitalの副学長 William A. Baumgartner 博士が、慈恵医大を訪れ、「Evolution of Surgical Residency and Cardiac Surgery at Johns Hopkins: 1889-2017」と題して、講演された。本稿では、その講演の内容を紹介すると共に、慈恵医大における臨床・教育・研究をさらに充実させるために、Johns Hopkins Hospitalの130年に及ぶ歴史と数々のチャレンジから我々が何を学ぶべきかについて考えてみたい。

### [Johns Hopkins Hospitalの生い立ち、慈恵の生い立ち]

Johns Hopkins Hospitalは、1873年に、ボルチモアで大成功を収めた貿易商人 Johns Hopkins氏が、

Johns Hopkins HospitalとJohns Hopkins大学設立のために残した700万ドル(現在の金額では、1億5600万ドル)の資産を基に1889年に設立された(写真1)。医学部は4年前の1885年に設立されており、これは、高木兼寛先生が1881年に成医会講習所を開講し、翌1882年に有志共立東京病院を設立したのとはほぼ同年代の出来事である。この病院は、当時の標準的医療を受けることができなかつた貧しい患者を対象とし、患者本位の医学教育と臨床研究を同時に行うという、米国でも初めての試みで、設立された病院であるが、同じ時期に、ほぼ同じ目的で、慈恵医大の前身である成医会講習所や有志共立東京病院が設立されているのは、大変興味深い。また、Johns Hopkinsでは、1889年に病院の開院と同じ年に、



看護学校を設立し、当初から、看護教育を重視していることも、高木兼寛先生が、Mary Reade女史を招いて有志共立東京病院で看護学校を設立されたことと考え合わせると、二つの大学の生い立ちには共通点が多い。

### 【Johns Hopkins Hospitalにおける臨床教育と臨床研究】

Johns Hopkins Hospitalにおける医師の教育は、William Welch（病理学）、William Halstead（外科学）、William Osler（内科学）、Howard Kelly（産婦人科学）という、ビッグ4と呼ばれる4人の教授（図2）が中心となって始められた。Osler 博士、Halstead博士は、米国で初めて、各々内科、外科におけるレジデント教育制度を構築したことで知られるが、研修医をレジデントと呼ぶ言葉の源が、彼らが、Johns Hopkins Hospitalに文字通り、住みこむ（Resident）位、仕事に邁進することからきており、また、回診をラウンドと呼ぶのも、設立当初のJohns Hopkinsの回廊型の病室を回る（Round）（図3）ところからきている。

さらに、John Hopkins 大学病院は、女性を医学生として、最も早く受け入れた医科大学の一つであり、Harvard大学への入学を拒否されたTaussig 博士（小児循環器内科医）がチアノーゼを起こす先天性心奇形の治療に鎖骨下動脈から肺動脈へのシャントを作成するという彼女のアイデアを、Blalock教授が受け入れて、今日まで数多くの子供達を救って来た手術法の開発に繋がっている。また、現在救急現場で広く使われている除細動器の発明も、Hopkinsの多様性を重視し、基礎と臨床の垣根を超えた研究が実を結んだものである。



図2: Big Four: Johns Hopkins大学医学部を創設した4人の教授  
左からWelch（病理学）、Halsted（外科学）、Osler（内科学）、Kelly（産婦人科学）各教授。

### 【Academic Physician/Surgeon をいかに育てるか】

Johns Hopkins大学心臓外科では、過去75年間の歴史において、伝統的に医学部入学前の大学生、医学生、一般外科研修中のレジデントから心臓外科に興味を持つ優秀な者に、研究課題を与え、論文のFirst Authorとして発表する機会を与えて来た。その結果、581編の論文が発表され、そうした経験を経たレジデントの多く（86名中60人）がアカデミックポジションに着き、46名が主任教授となっている。忙しい臨床の合間を縫って、指導医がリサーチミーティングで研究の進捗を確認し、適切なアドバイスを与えるとともに、論文の完成まで、事細かく指導する姿勢は、Blalock博士時代から75年経った現在でも脈々と引き継がれている。

### 【我々が学ぶべきこと】

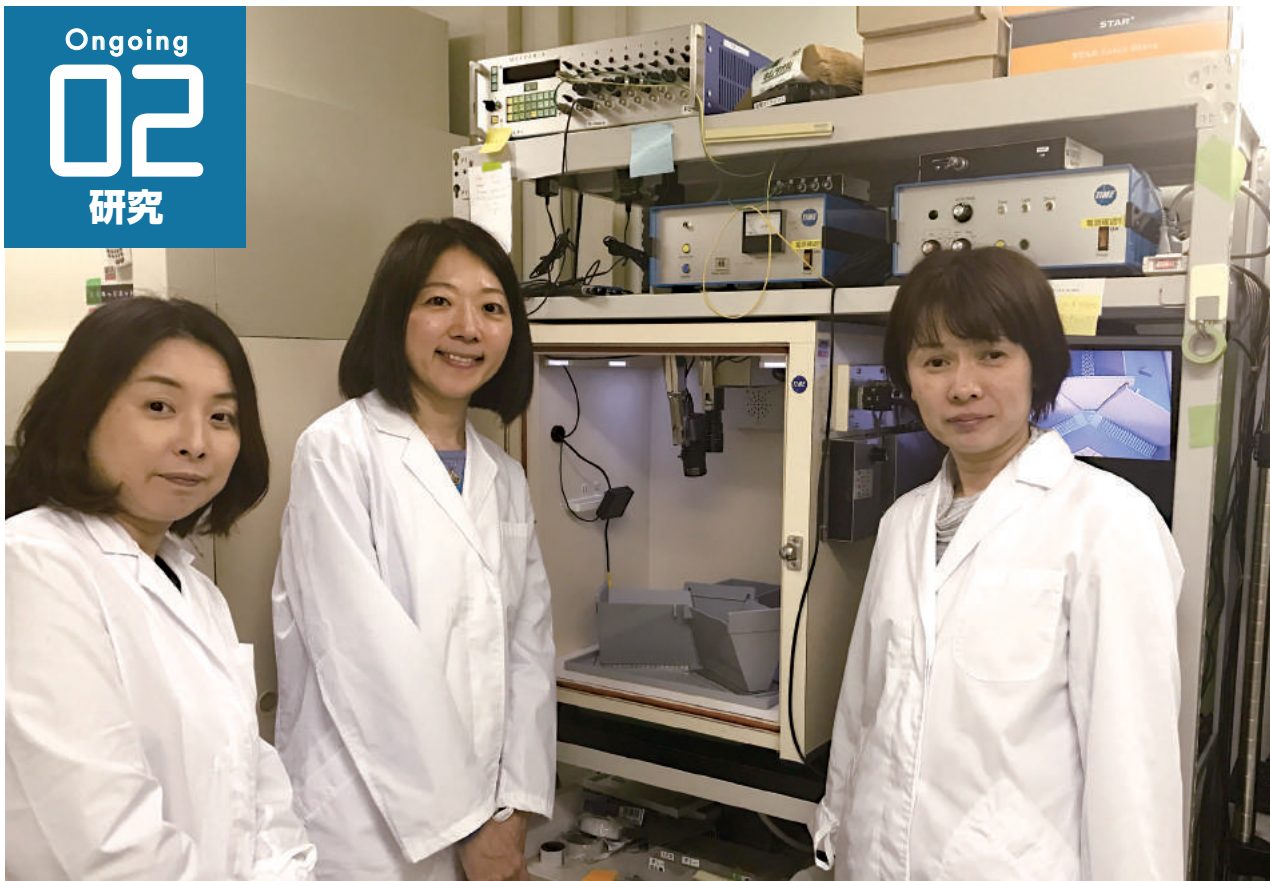
生い立ちをほぼ同じくするJohns Hopkinsと慈恵医大であるが、我々が彼らから学ぶべきことは多い。Baumgartner教授は、Johns Hopkinsでは、Core Value（表1）を皆が共有している事が、強みであると強調されていた。我々には、「病気を診ずして、病人を診よ」という学祖の教えがあるが、それをさらに具体化する慈恵医大独自の価値観の共有が肝要と思われる。

Excellence & Discovery	最高峰を目指し、発見を求める姿勢
Leadership & Integrity	リーダーシップの発揮と信頼性の担保
Diversity & Inclusion	多様性を認め、様々な背景の人材を登用する
Respect & Collegiality	互いを尊敬し、協調する

表1: Johns Hopkins Hospital: Core Value



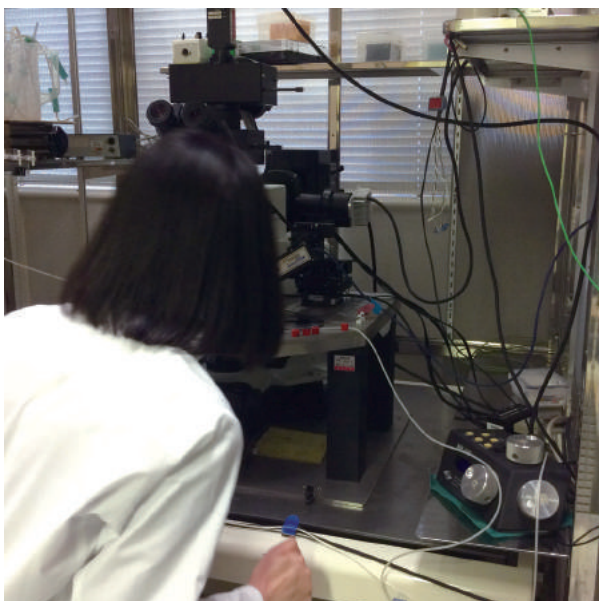
図3: Johns Hopkins Hospitalの象徴:Dome  
開設当時、回廊型の病室として使われていた。



## 行動を司る脳の フロンティアに挑む

～報酬や痛みなどの喜びや苦しみを生み出す  
メカニズム解明に向けて～

総合医科学研究センター  
臨床医学研究所  
教授 **渡部文子**



### 1.はじめに

現代の高齢化社会、ストレス社会において、心のケアやQOLが社会的関心を集めています。特に、人工知能(AI)や仮想現実(VR)などの技術革新は、五感による経験の世界にパラダイムシフトを起こしました。介護ロボットやテイラーメイド医療など、様々な活用が期待される一方で、VRにおける意識とはなにか? AIに心は宿るか?といった心と意識のハードプロブレムにも直結することから、改めて、心のケアとは何かを考える必要があります。

### 2.快・不快や好き・嫌いの神経回路

私たち人間は、五感を使って外界についての情報を得ています。その情報を脳内で処理する過程で、快・不



快や好き・嫌いなどの情動が誘発され、忌避や誘引などの行動につながります。このような正・負の情動は「毒や危険を避け、安全な食物や巣を選ぶ」という生存に大切な信号です。さらに現代社会では、美しい絵画や音楽に感動したり、美味しいご馳走に舌鼓を打ったりと、生活に豊かな彩りも与えてくれます。たとえば、満開の桜を見て、春の訪れに高揚感を抱く人もいれば、卒業や別れの季節に悲しくなる人もいます。このように、同じ感覚情報を受け取っても、その人の経験や記憶によって、まったく異なる情動がうまれることもあります。近年の研究から、このような情動の制御には、脳内の神経回路のはたらきが重要であることがわかってきました。

### 3. 行動を司る脳内回路とその「可塑性」

情動には、扁桃体や視床下部といった多くの脳領域が関与することが知られています。私たちはこれらの脳領域の神経回路の働きが、痛みの負情動を生み出すことを発見しました(Sato et al., 2015)。さらに、これらの神経回路が高い「可塑性」を持つことも見出しました(Watabe et al., 2013; Shinohara et al., 2017)。

「可塑性」とは、脳においては神経細胞の繋がりの強さが経験や活動によって変化する性質のことで、「過去の経験や環境に適応し、行動を柔軟に調節する」という脳の本質に直結します。神経細胞は複雑なネットワークを形成し、ドーパミン、ノルアドレナリンのほか様々な因子によって修飾され、さらに可塑性の閾値が発達や経験依存的にシフトする、という多層的制御機構を持ちます。可塑性は、記憶・学習や意思決定に重要な鍵となる一方で、この多層的制御のどこかに不具合が生じることが、様々な疾患に繋がると考えられます。そこで、まず可塑性の分子メカニズムを明らかにすることが、将来的には、その破綻から疾患に至るプロセスへの介入法、さらには新規治療法への開発に繋がると考えています。

私がこのような情動研究をスタートしたのは、西新橋の神経科学研究部で加藤総夫教授にご指導いただいたのがきっかけでした。加藤教授は痛み研究の第一人者であり、慈恵痛み脳科学センターのセンター長として、研究を推進されています。マウスが痛みを感じるのかは、心や意識を持つのかと同様、さまざまな階層の議論が必要

です。しかしながら、ヒトにおいても痛みは主観的体験であり、他人の痛みを理解出来るのかについては、同様の議論が避けられません。近年、他人の痛みへの共感に、自分の痛みと共通の脳部位が活性化すること(Singer et al., 2004)、不公平感や罪悪感といった心の痛み「Social Pain」にも身体の痛みと共通する脳領域が関与すること(Eisenberger et al., 2003)の報告から、痛み情動の研究が飛躍的に進んできました。

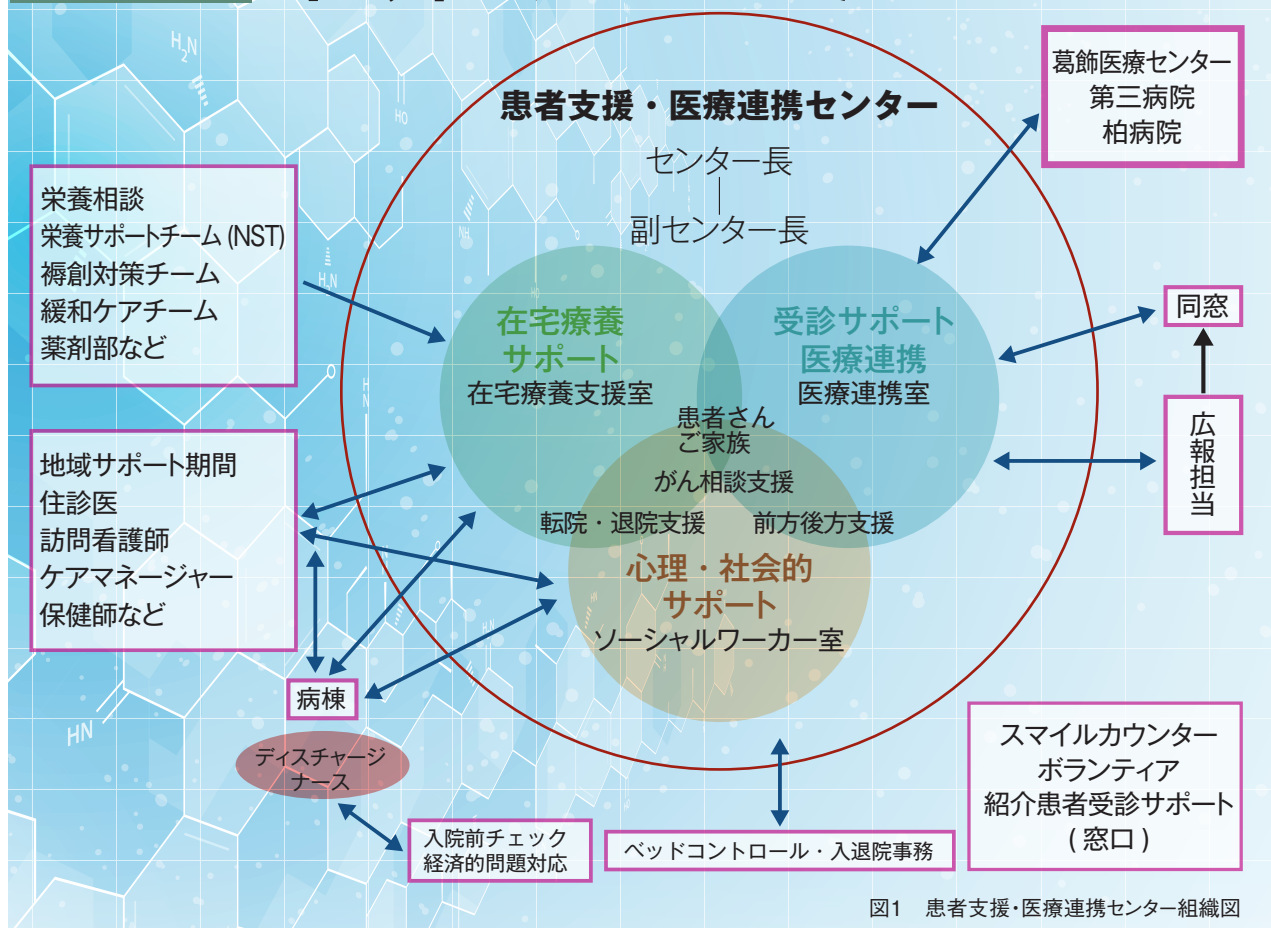
### 4. 新しいラボでの取り組みと今後の展望

我々の研究室では、このように行動や意思決定を左右する情動の脳内メカニズムに焦点をあて、健康な状態ではどのように神経回路が制御され、その制御破綻がどのように疾患へと繋がるのかを明らかにするため、マウスを中心としたモデル動物を用いて研究を行っています。痛みに伴う苦痛、食事や養育に伴う快情動といった快・不快情動、さらに記憶・学習や認知などへのアプローチとして、行動科学と電気生理学を2本の柱とし、遺伝子改変マウスや各種改変ウイルスベクターなどのツールを駆使して、光遺伝学、薬理遺伝学から光生理学まで多角的な手法により、脳と心の動作原理に迫ることを目指しています。

我々の研究室が所属する臨床医学研究所は、患者さん中心の医療につながる基礎シーズを研究開発することを使命として、柏キャンパスに設置されています。現在、私たちは遺伝子治療研究部(大橋十也教授・総合医科学研究センター長)とも連携し、本学が豊富な症例を持つ先天代謝異常症において、モデルマウスを用いた認知機能評価と治療法開発を目指した基礎研究にも取り組んでいます。

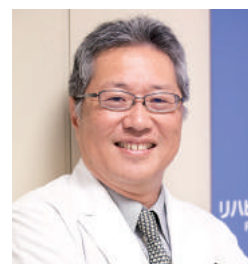
たとえば喘息やCOPD、リウマチや糖尿病など、精神疾患とは一見無関係な多くの慢性疾患においても、うつ傾向や痛みの増悪、快情動の欠落など、情動制御の破綻が広く知られていますが、個別因子・個別臓器中心の医療だけではこのような疾患における患者さんのQOL向上への対策は遅れがちです。今後は、臨床部門、基礎講座とも積極的に連携することで、このような疾患への応用を目指し、本学の理念である「病気を診ずして病人を診よ」を体現するような、慈恵らしい研究を世界に向けて発信し、慈恵のさらなる発展に寄与したいと思っています。

# 教職員向け 医療連携フォーラムへの 取り組みについて



## はじめに

附属病院の患者支援・医療連携センターは、平成29年度よりセンター長に石川 智久先生、副センター長に藤井 英紀先生、川浪 大治先生、事務課長に金子 文成さんを迎え、図1に示すように在宅診療サポート、受診サポート・医療連携、心理社会的サポートを中心に、いろいろなおとこと関わり合いながら、1. 患者さん受診支援、2. 医療福祉相談、3. 在宅療養相談・看護相談、4. 退院・転院支援、5. がん相談をおこなっています。



副院長(医療連携担当)  
安部 雅博

## 教職員向け医療連携フォーラム

ご存知のように附属病院が属する区中央部の圏域は、多くの基幹病院や大学病院が存在する他の地域にない医療激戦地区です。よって、病院の収益の面から考えても、患者支援・医療連携センターの仕事の中でも新規患者獲

得による診断治療者数の拡大は必ずやらなければならない重要課題の一つです。

現在、多くの診療科で日本のトップレベルの治療法が行われています。しかしながら、あまりにも忙しくいろいろな情報が多すぎて、医師同士でも他科の素晴らしい業績に気



づきにくくなっています。なので、職員の皆さん方にとっては更に情報不足であることは否めません。関連病院の先生方に患者さんを紹介していただくことも大切ですが、教職員から慈恵医大の良さをアピール、情報発信を目的とした教職員向け医療連携フォーラムを定期的で開催し、慈恵医大に勤務する教職員、委託職員、教職員のご家族の皆様、慈恵医大最新治療などをわかりやすくご講演いただく目的で、この教職員向け医療連携フォーラムを開始いたしました。松藤千弥学長が言われている「慈恵らしい教育」

「慈恵らしい医療」に当てはまるのではないかと思います。

このフォーラムは、表1に示すように平成29年1月24日に眼科を皮切りに耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、産婦人科、整形外科、乳腺内分泌外科による講演が終わり平成29年11月21日に精神神経科の担当を予定しています。毎回数百人の参加があり、教職員からの紹介患者がコンスタントに増加してきました。ご不明点などありましたら御気軽にお問い合わせ下さい!職員一同お待ちしております!院内の連携強化にも積極的に取り組んで参ります。

## 教職員からの外来診療予約取得

図2のような流れになります。

職員紹介による予約の利点として、初回の診察から予約できるため、予約外の受診に比べ待ち時間が短縮されること、患者情報(患者氏名・生年月日・住所・電話番号・保険情報)を基に、事前に診察カード・カルテが準備できること、患者は受診当日、直接各科外来窓口での手続きとなることなどがあげられます。また、イントラネットから「教職員患者紹介診療申込用紙」をダウンロードできます。「職員紹介カード」を患者支援・医療連携センターまでお持ちくだされば、その場で予約をお取りして予約票をお渡しさせていただきます。可能であれば、かかりつけ医療機関からの

診療情報提供書を診察時までにご用意下さい。診療情報提供書をご用意いただけない場合は、診療費とは別途に選定療養費5,400円(税込)請求となります。



図2 職員紹介の流れ

表1 教職員向け医療連携フォーラム

	日程	担当科	題名	講師(敬称略)
第1回	2017年1月24日	眼科	最新の白内障手術	柴 琢也
			(他では聞けない)白内障手術の賢い受け方	常岡 寛
第2回	2017年2月7日	耳鼻咽喉科	アレルギー性鼻炎・慢性副鼻腔炎の治療最前線	浅香 大也
第3回	2017年3月7日	リハビリテーション科	リハビリテーション科の紹介と経頭蓋磁気刺激とボツリヌス療法について	安保 雅博
第4回	2017年5月16日	産婦人科	女性のライフサイクルと健康について	松野 香苗
第5回	2017年7月18日	整形外科	慈恵整形外科による骨・関節アンチエイジング 外来治療から手術療法最前線	斎藤 充
第6回	2017年9月12日	乳腺内分泌外科	乳がんの診断と治療—慈恵ならではの—	野木 裕子
		患者支援・医療連携センター	当院における治療と職業生活の両立支援について	石川 智久
第7回	2017年11月21日	精神神経科	認知症早期発見時代のメモリークリニックの活用法	繁田 雅弘
			うつ病の最新治療:反復経頭蓋磁気刺激療法	鬼頭 伸輔
毎回	診療科の講演後	患者支援・医療連携センター	教職員による外来診療予約取得方法について	安藤 真之

～患者支援・医療連携センター  
医療連携室～

《場所》

外来棟4階

《受付時間》

月～金曜 午前9時～午後6時30分  
土曜 午前9時～午後5時

《内線》 5099

Column  
01  
受賞

福島統教授(教育センター)が  
第49回  
日本医学教育学会総会にて、  
学会賞「日野原賞」を受賞

東京慈恵会医科大学 教育センター 教授  
中村 真理子



福島統先生は、本年8月に開催された第49回日本医学教育学会総会で、学会賞「日野原賞」を受賞されました。「日野原賞」は、「医学教育に関する活動・業績が国内外の医学教育の改善・普及に多大の貢献をし、今後医学教育の領域での一層の活躍が期待される者」に贈られる栄誉ある賞です。

福島先生は昭和56年に本学を卒業後、第1解剖学教室の大学院に進まれ、解剖学で研鑽を積まれました。平成7年にカリキュラム委員に抜擢されたのを機に、平成8年からの本学カリキュラム改革に力を発揮され、数々の先駆的な取り組みを完遂されました。コース・ユニット制、総合試験システム、12ステーションからなる客観的臨床能力試験(OSCE)の導入、シミュレーション教育施設の整備、1年次から段階的に多様な現場経験を積み重ねる学外実習の構築など、こ

れらは本学の特徴的なカリキュラムとして広く知られています。改革にあたって数多くの競争的教育補助金GPを獲得したことも先生の力に負うところが大きく、教育推進の原動力となりました。平成15年からは青戸病院医療事故を端緒とした、学内の多職種連携ワークショップ「医療の安全教育ワークショップ」(後に「チーム医療構築ワークショップ」と改称)を企画・実施され、12年間、103回で計8537名の学生・研修医・教職員が参加するという実績をあげました。本ワークショップは医療安全についての大きな功績として海外にも紹介されました。また、キングス大学医学部との継続的な交流は、本学の教育改善の源となりました。

学外の活動としては、医学教育モデル・コア・カリキュラム策定、共用試験の創設、OSCEの研究班活動、多職種連携教育や地域医療教育の推

進、医学教育分野別評価の導入など多くの重要な事業を中心的存在として確立されました。現在は、日本医学教育学会副理事長、医学教育振興財団常務理事、全国医学部長病院長会議座長、柔道整復研修試験財団代表理事と多くの役職についておられます。海外では、2010年に世界医学教育学会のDoctor's Role in the Future のタスクフォース、2011年からBritish Journal of General Practice のInternational Advisory Boardメンバー、本年からはヨーロッパ医学教育学会のASPIRE Curriculum Development 委員として活躍されています。

日本の医学教育を先導し、海外と日本の橋渡しに尽力し、医療の質向上のための医学教育という視点で世界的に活動されていることが高く評価された今回の受賞は、本学の誇りと言えるのではないのでしょうか。



Column  
02  
交換留学

## King's College London Florence Nightingale Faculty of Nursing & Midwiferyとの 交換留学

国際交流センター運営委員 看護学科国際交流委員長  
内田 満



英国のキングスカレッジ、ナイチンゲール看護学部と本学の間で2016年に締結された大学間協定に基づき、本年度は4年生成田実加、河辺壮太の2名が、セントトーマス病院で9月25日から2週間の臨地実習を行った。

ロンドンでの実習に先立ち、さまざまな注意事項や心構えがE-mailで学生に送付される。病棟では各実習生に対してメンター（経験を積んだ指導者）が任命される。メンターはオリエンテーション、実習内容の説明と指示、看護技術の指導などを行う。さらに毎日の実習状況の評価を行い、最終的な評定を与え、将来に向けて改善点の指摘、アドバイスなどを行う。

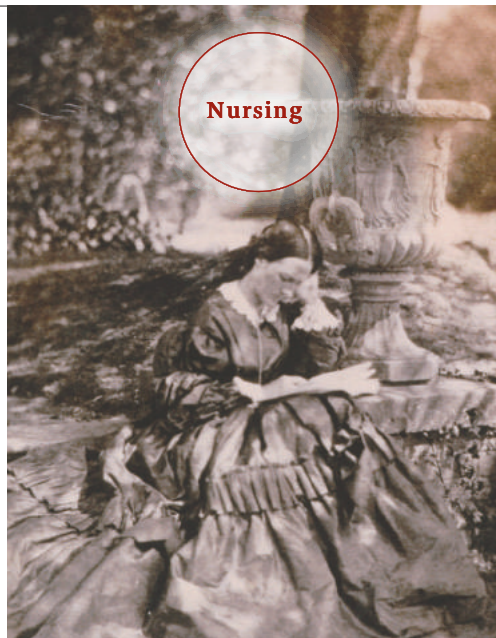
成田実加は、英国での実習について次のように話している。「第一印象は実習生と看護師の距離が近いということ、最も驚いたのは、患者さんに対して看護学生が実施する手技の幅広さで、創傷の処置や注射も

行うように指示された。学生と一緒に働くメンバーの一人として評価していると感じた。私は術後の患者さん二名を受け持ち、1時間毎に行うバイタルサインの測定、超音波ドップラーや心電図の確認などの他に、水分摂取量と尿量のバランスの管理なども実施した。他の職種の人達との連携を体験し、英国の看護師が地域や病院でどんな役割を果たしているかを学ぶことができた。大変有意義な実習であり、これを将来に生かして国際的に活躍できる看護師を目指したい。」

河辺壮太は、「朝7時から夜8時までという日本とは異なる勤務時間であったため、初めは戸惑いなどあったが、スタッフと患者さんが優しく接してくれて、すぐに慣れることができた。看護師の役割は、日本と類似している点が多かったが、皮下注射やミキシングなど、学生が指導のもとに行える看護技術はより豊富だった。国民

性の違いからか患者さんと医療者がとてもフランクな関係性であったことに驚かされた。今回の実習は日本の看護について改めて考えさせられる良い機会となった。今後、グローバルな視野が必要とされる機会はますます増えると思う。これからも海外の医療に目を向けつつ、看護師として成長していきたい。」と述べている。

2016年にナイチンゲール看護学部から慈恵を訪れ、附属第三病院と本院で実習を行った Kismet Millington は、英国にはない慈恵の看護の優れた点に感銘を受けたと語っている。この交換留学制度は、両校の学生にとって他国の人々の健康問題と看護の現状を学ぶ絶好の機会となっている。そして多様性を受け入れる柔軟性を育て、異なる文化・宗教・人種と相対しても社会的良識をもち、礼節を守ることができるグローバルな人材を育てるという目標の達成に貢献している。



ナイチンゲール38歳(1858年)  
英国南部のエンブレイにあるフローレンス家の  
庭で撮影された。この2年後セントトーマ  
ス病院にナイチンゲール看護学校が開校。

## フローレンス・ナイチンゲールの教えを 臨床に根づかせることを目指して

附属病院看護部  
部長 小澤かおり



フローレンス・ナイチンゲールは、看護覚え書の『補章：看護師とは何か』の文頭に、「自分自身はけっして感じたことのない他人の感情のただなかへ自己を投入する能力を、これほど必要とする仕事はほかに存在しないのである」と述べています。

看護をさせていただく方のすべてを知りうることはないという自覚を持ちながらも、その人の表情に現れるあらゆる変化から、その時の思いに寄り添い、苦痛を取り除くことや、持てる力を支援する関わりが大切であると日々実感しております。

ナイチンゲールは看護理論書として書物を残すことはありませんでしたが、ナイチンゲールの著作を研究しまとめられた科学的看護論〈薄井坦子著〉、講演、事例検討でアドバイスを受け学んでおります。実践方法論は、三重の関

心を注ぎ、患者さんのありたい姿を重ねます。三重の関心を注ぐとは、「その人の状態を生命力=生きる力・生活する力・支える力・人と関わる力、が消耗していると見てとり(第一の関心)、つらいだろうと関心を注ぎ(第二の関心)それを取り除こうと行動ができる(第三の関心)」であり、看護の初心者でもこの判断規準をもとに看護を実践していくことができるものです。

先日、新人ナースが、がん性胸水の壮年期の女性患者さんが苦しうに息をしながら、髪の毛に触れている姿を見て(第一の関心)、呼吸もつらいだろうけれど髪の毛の汚れやかゆみもつらいだろうと思い(第二の関心)、苦しうな姿勢を一緒に考えて、循環を良くするように手をマッサージしながら髪の毛を洗いましょうかとお聞きすると、(第三の関心)患者さんは即承諾

していただきました。そして、髪を洗い終えて整えたところで、患者さんが「あー、気持ちよかった。今日は、このところで一番の最良の日だった。」と笑顔で言われたと、担当師長が教えてくれました。これは、小さな場面ですが、三重の関心を注いだ看護実践が、患者さんの苦痛を取り除き、患者さんの本来の持てる力である笑顔を引き出した場面であると思います。

ナイチンゲールの教えを臨床に根づかせるには、目の前にいる患者さんを見つめ理論を判断規準にして実践し、その実践がなぜいかにして良い看護だったといえるのか、あるいは不十分であったのかを、看護チームで語り合い、学び、つないでいく事であると思います。皆様よりご支援、ご助言を賜りながら精進してまいります。



慈恵大学で開催された様々なイベントをご紹介します。

7月22日  
23日

## 看護学科 オープンキャンパス開催!

### 看護学科 オープンキャンパス

看護学科オープンキャンパスが平成29年7月22日(土)～23日(日)に開催されました。2日間で954名が来場し、その多くは本学看護学科への進学を目指す高校生と保護者でした。参加者は、1階大講堂で全体説明を受け、その後、キャンパスツアー、個別相談、看護体験、ミニレクチャー、学生食堂ベラの麦飯メニューなど入学後の学生生活をイメージする趣向を凝らした催しに目を輝かせながら参加していました。



## 西新橋キャンパス中央講堂での最後のオープンキャンパス開催

8月10日  
12日

### 医学科 オープンキャンパス

医学科オープンキャンパスが平成29年8月10日(木)・12日(土)に西新橋中央講堂において開催されました。2日間で1,586名が参加しました。

学長、カリキュラム委員長の講演、キャリアパス、入試説明、在校生が語る大学生活等どれも好評でした。

説明会終了後には大学1号館に移動し、施設見学、入試相談会、模擬講義、聴診体験、外国人SPとの英語医療面接等どれも大変盛況でした。





## 第3回 慈恵医大・東京理科大 合同シンポジウム

9月9日

### 本学と東京理大の交流

本シンポジウムは、本学の臨床医学研究所(柏)と東京理科大学薬学部(野田)のキャンパスが近距離に位置することから、2年前より研究の交流の一環として開始されました。現在では大学間の教育・研究連携を基盤として行われており、薬学部学生が研究実習生あるいは病院実習生として本学へ派遣されるようになりました。当日は本学から栗原敏理事長ならびに松藤千弥学長、東京理科大からは藤島昭学長のご臨席を賜り、11演題の発表に対し活発な討論が行われ医学と薬学のジョイントする発表会となりました。シンポジウム終了後はカフェテリア リーベにおいて懇親会が開かれ、両大学の親睦を深めました。



## 第134回成医会総会 「成医会優秀ポスター発表賞」の受賞について

10月13日

### 44題の応募があり、3篇が「成医会優秀ポスター発表賞」に選出される

「成医会優秀ポスター発表賞」は、ポスター発表のさらなる発展と発表者の意欲を高める目的で、一般演題(示説発表)より3篇を選び、成医会総会2日目の会長招待評議員昼食会にて授与されるものです。

第134回成医会総会においては、一般演題(示説発表)に44題の応募があり、次の3篇が「成医会優秀ポスター発表賞」に選出され10月13日(金)の会長招待評議員昼食会にて、松藤千弥会長より賞状および副賞が授与されました。

#### 受賞演題1

「心筋過伸展は筋発生張力を減弱し、線維化関連因子発現を増加する」

碓井文雄<sup>1</sup>、山田祐揮<sup>2</sup>、草刈洋一郎<sup>3</sup>、南沢 享<sup>3</sup> 殿(1.医学科4年、2.医学科6年、3.細胞生理学講座)

#### 受賞演題2

「プロゲスチンの新たな効果の発見—黄色ブドウ球菌に対するバイオフィルム形成阻害と $\beta$ -lactam系抗菌薬への感受性向上効果」

奥田賢一<sup>1</sup>、吉井 悠<sup>1</sup>、山田聡美<sup>1</sup>、永倉茉莉<sup>1</sup>、杉本真也<sup>1</sup>、長野哲雄<sup>2</sup>、岡部隆義<sup>2</sup>、小島宏建<sup>2</sup>、岩本武夫<sup>3</sup>、桑野和善<sup>4</sup>、水之江義充<sup>1</sup> 殿

(1.細菌学講座、2.東京大学 創薬機構、3.総合医科学研究センター 基盤研究施設(分子細胞生物学)、4.呼吸器内科)

#### 受賞演題3

「RNA代謝異常により引き起こされる神経変性疾患の機序解析」

小川優樹<sup>1</sup>、山口隼司<sup>2</sup>、鐘ヶ江裕美<sup>3</sup>、内山安男<sup>2</sup>、岡野ジェイムス洋尚<sup>1</sup> 殿

(1.総合医科学研究センター 再生医学研究部 2.順天堂大学 大学院医学研究科 神経疾患病態構造学 3.総合医科学研究センター 基盤研究施設(分子遺伝学))



## 平成29年11月12日 港区災害医療合同訓練(総務課)

港区内で一斉に行う初の試み

11月12日



みなと保健所、区内12病院、港区医師会、薬剤師会等、各関係機関が参加し、港区災害医療合同訓練が平成29年11月12日に実施されました。港区内で一斉に行う訓練は初の試みでした。本学での訓練では、災害対策本部の立ち上げ、緊急医療救護所(エアテント)の設置のほか、港区医師会と港区薬剤師会の医療救護チームや模擬患者役として近隣町内会の方々がトリアージ訓練に参加いたしました。また、済生会中央病院から救急車による患者搬送訓練も実施されました。大規模災害発生時は、各機関との協力連携体制は必要不可欠なため、今後も定期的な訓練が必要と考えられます。

## 看護学科第2回ファブール祭開催 テーマは、「HOPE」

ファブール祭

11月4日

11月4日(土)、国領キャンパスにおいて、看護学科学学生主催の第2回ファブール祭が開催されました。今年のテーマは「HOPE」で、地域の方々との交流、看護学科の知名度アップの願いが込められています。各種模擬店の他、看護体験コーナー、学生相談コーナー、海外研修報告、映画上映、各クラブ発表などさまざまな催しが行われ、また、福祉団体の参加もあり、盛況に終わりました。





## 発信×共有×行動 一人ひとりの声がチーム医療を支える

11月

### 医療安全推進週間

11月1日(水)～14日(火)に全学を挙げ安全な医療提供するために様々な活動を行いました。

1. 安全で安心な医療を推進するシンボル「みどりのリボン」をすべての教職員・関連スタッフ・学生が着用しました。
2. 患者さんにも医療チームの一員として医療安全推進活動に参加して頂きたいことをプリントした外来会計ホルダーを使用してアピールしました。
3. 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウムを開催しました。  
テーマ「大規模災害時の病院機能・熊本地震への対応と課題」
4. 附属病院(本院)、葛飾医療センター、第三病院、柏病院がそれぞれ独自の活動を行いました。
5. 附属病院(本院)独自の取り組み
  - ①「職員個々の医療安全に向けての宣言」の院内掲示
  - ②「診療情報共有改善対策に関する報告会」の開催
  - ③業務用携帯電話を利用した院内教職員へのメッセージ通知



## 2号館講堂で初の戴帽式が開催される

### 戴帽式

12月2日

平成29年12月2日(土)に2号館講堂にて慈恵看護専門学校戴帽式(68期生99名)が挙行されました。戴帽式は看護学生が看護を学ぶ課程において帽子をいただき、その決意を再認識し新たな気持ちで勉学に励む機会となり人生のなかで忘れられない儀式となっております。(慈恵看護教育130年史より抜粋)

2号館講堂での初挙行となりました。





12月13日



## 新外来棟(仮称)新築工事 地鎮祭

本学の発展を祝福するかのような晴天に恵まれた平成29年12月13日(水)、栗原敏理事長、松藤千弥学長、丸毛啓史附属病院長をはじめ大学関係者、同窓会会長、工事関係者、並びに武井雅昭港区長をはじめとする行政関係者、国会議員や都・区議会議員、地元町会役員等の御来賓の御列席のもと、新外来棟(仮称)新築工事の地鎮祭が大学本館の解体された建設用地で、新外来棟建築への期待感を持って決意を新たに厳粛に執り行われました。

## 平成30年(2018)主な行事予定表

1月5日(金)	新年挨拶交歓会(午後4時から大学1号館講堂、テレビ会議)	2月17日(土)	医学科平成30年度第2次入学試験(面接:3日間 大学1号館)
1月6日(土)	同窓会・保護者会新年名刺交換会(午後4時から愛宕山東急REIホテル1階「愛宕」)	2月18日(日)	医学科平成30年度第2次入学試験(面接:3日間 大学1号館) 第107回看護師国家試験
1月27日(土)	大学院医学研究科(博士課程)平成30年度入学試験(二次募集)	2月23日(金)	医学科教授会議(臨時)(午後2時) 医学科平成30年度入学試験合格発表(午後3時)
1月31日(水)	医学科教授退任記念講義(午後2時から大学1号館講堂) 医学科教授退任記念パーティー(午後6時から東京プリンスホテル マグノリアホール)	3月3日(土)	第93回医学科卒業式・第23回看護学科卒業式(午後1時30分より2号館講堂) 謝恩会:帝国ホテル 看護学科(午後6時より孔雀西の間) 医学科(午後6時30分より孔雀東の間)
2月5日(月)	医学科平成30年度第1次入学試験(午前10時から筆記試験 五反田TOCビル)	3月19日(月)	第112回医師国家試験合格発表(午後2時)
2月10日(土)	第112回医師国家試験(2日間) 看護学科平成30年度第1次入学試験(筆記試験:午前10時 国領キャンパス)	3月26日(月)	第104回保健師・第107回看護師国家試験合格発表(午後2時)
2月11日(日)	第112回医師国家試験(2日間)	4月2日(月)	平成30年度大学院入学式(午後1時から大学1号館講堂)
2月12日(月)	看護学科教授会議(臨時)(午前11時) 看護学科平成30年度第1次入学試験合格発表(午後1時)	4月5日(木)	平成30年度医学科・看護学科入学式(午後2時から2号館講堂) 入学式終了後、新入生保護者の施設見学(大学1号館)および歓迎会(4階学生ホール) 看護学科は、国領キャンパスへ移動して施設見学および歓迎会(学生食堂ベラ)
2月13日(火)	医学科教授会議(臨時)(午後2時) 医学科平成30年度第1次試験合格者発表(午後3時) 看護学科平成30年度第2次入学試験(面接 看護学科校舎)	4月6日(金)	1年生 医学科・看護学科オリエンテーション(午前9時から看護学科1階大講堂)
2月14日(水)	博士課程2次募集合格発表(午後5時30分)	4月10日(火)	医学科・看護学科新入生スタートアップ研修
2月15日(木)	看護学科教授会議(臨時)(午後4時30分)	4月29日(日)	京都府立医科大学定期戦 懇談会・レセプション・懇親会(京都府立医大主催)
2月16日(金)	医学科平成30年度第2次入学試験(面接:3日間 大学1号館) 看護学科平成30年度入学試験合格発表(午後1時) 成医会第1263回例会 2号館講堂(午後6時から) 第104回保健師国家試験	5月1日(火)	創立記念日
		6月2日(土)	医学科保護者会春期総会(午後3時から看護学科1階大講堂)懇親会(ベラ食堂)
		6月16日(土)	実験動物慰霊祭(午後3時から大学1号館講堂)







### 公示

#### ●平成29年4月1日

中山 和彦氏に、名誉教授の称号を贈る  
常岡 寛氏に、名誉教授の称号を贈る  
福田 国彦氏に、名誉教授の称号を贈る  
相羽 恵介氏に、客員教授の称号を贈る  
落合 和彦氏に、客員教授を委嘱する  
大草 敏史氏に、客員教授を委嘱する  
横田 邦信氏に、客員教授を委嘱する  
持尾 聰一郎氏に、客員教授を委嘱する  
安保 雅博教授に、生涯学習センター長を命ずる  
尾尻 博也教授に、アイソトープ実験研究施設長を命ずる  
西岡 真由美教授に、基盤研究施設(分子遺伝学)施設長を命ずる  
矢野 真吾氏に、附属4 病院腫瘍・血液内科総括責任者を命ずる  
矢野 真吾氏に、附属病院腫瘍・血液内科診療部長を命ずる

#### ●平成29年5月1日

藤井 哲郎准教授に、教授を命ずる  
飯田 誠准教授に、教授を命ずる  
(特任期間 平成29年5月1日～平成32年3月31日)  
高橋 直人講師に、准教授を命ずる  
藤岡 秀一講師に、准教授を命ずる

#### ●平成29年6月1日

鷹橋 浩幸准教授に、教授を命ずる  
松浦 慎太郎准教授に、教授を命ずる  
田知本 寛講師に、准教授を命ずる  
矢野 真吾氏に、附属病院腫瘍センター長を命ずる  
田崎 哲典氏に、附属病院造血細胞治療センター長を命ずる  
三尾 寧氏に、附属第三病院麻醉部診療部長を命ずる  
石井 卓也氏に、附属第三病院脳神経外科診療部長代行を命ずる

#### ●平成29年7月1日

小川 潔准教授に、客員教授を委嘱する  
斎藤 三郎准教授に、教授を命ずる  
関 晋吾准教授に、教授を命ずる  
梅澤 慶紀准教授に、教授を命ずる  
花岡 一成講師に、准教授を命ずる  
浦島 崇講師に、准教授を命ずる  
牧野 陽二郎氏に、附属柏病院形成外科診療部長代行を命ずる

#### ●平成29年8月1日

小野 和哉氏に、客員教授を委嘱する  
島田 貴准教授に、教授を命ずる  
吉田 正樹准教授に、教授を命ずる  
赤崎 安晴講師に、准教授を命ずる  
佐々木 信幸講師に、准教授を命ずる  
庄司 和広講師に、准教授を命ずる  
(特任期間 平成29年8月1日～平成32年3月31日)

#### ●平成29年9月1日

田鬼頭 伸輔氏に、准教授を命ずる  
中村 美鈴氏に、看護学科客員教授を委嘱する

#### ●平成29年10月1日

松井 隆氏に、客員教授を委嘱する  
土橋 史明准教授に、教授を命ずる  
中田 浩二准教授に、教授を命ずる  
岩瀬 忠行講師に、准教授を命ずる  
杉本 真也講師に、准教授を命ずる  
坪井 伸夫講師に、准教授を命ずる  
小笠原 洋治講師に、准教授を命ずる



### 学事

#### ● 大学院修了者

29.5.10	千葉 允文	
29.6.28	恩田 美湖	金子 惇
29.7.12	三石 雄大	堀内 堯
29.7.26	鈴木 雄太	
29.9.13	清原 美佳	

#### ● 学位論文通過者

29.5.10	森 彰平	福島 僚子
29.6.14	細田 千晶	宮坂 輝幸
29.7.12	木下 浩司	日高 章寿
29.9.13	小林 秀嗣	青木 孝彦
	神尾 麻紀子	飯田 里菜子
	奥津 裕也	
29.9.27	畠 憲一	

### 訃報

- ▶ 同窓会顧問 宇野 慶三先生(昭和26年卒)は、5月5日逝去されました。
- ▶ 荒井 隆雄講師(脳神経外科学講座)は、5月15日逝去されました。
- ▶ 泉 祐子看護師(附属柏病院 看護部)は、7月25日逝去されました。
- ▶ 藍澤 茂雄名誉教授(病理学講座)は、9月2日逝去されました。
- ▶ 笠間 絹代助教(内科学講座(腫瘍・血液内科))は、9月7日逝去されました。
- ▶ 館 風花助教(病理学講座)は、9月26日逝去されました。

### 東京慈恵会公報：行事

平成29年 6月20日(火) 公益社団法人東京慈恵会理事会、評議員会、定時総会が開催された。

# Notice

## 補助金・助成金

### 平成29年度

### 科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覽

#### 1. 科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覽(平成28年度、平成29年度) (単位:千円)

研究種目	28年度			29年度		
	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)
新学術領域研究	2	4,300	1,290	1	2,000	600
基盤研究 (A)	0	0	0	2	31,300	9,390
基盤研究 (B)	10	29,900	8,970	6	18,200	5,460
基盤研究 (C)	73	87,892	26,375	92	105,150	31,545
挑戦の萌芽研究	16	19,400	5,820	10	8,800	2,640
挑戦の研究(開拓)				0	0	0
挑戦の研究(萌芽)				1	700	210
若手研究 (A)	4	25,800	7,740	4	14,400	4,320
若手研究 (B)	37	36,865	11,059	42	46,100	13,830
研究活動スタート支援	5	5,700	1,710	3	3,200	960
特別研究員奨励費	4	4,100	390	7	7,400	1,110
合計	151	213,957	63,354	168	237,250	70,065

#### 2. 科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覽(新規採択分+継続分) (単位:千円)

研究種目	29年度(継続分)			29年度(新規採択分)		
	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)
新学術領域研究	0	0	0	1	2,000	600
基盤研究 (A)	0	0	0	2	31,300	9,390
基盤研究 (B)	5	12,200	3,660	1	6,000	1,800
基盤研究 (C)	54	55,150	16,545	38	50,000	15,000
挑戦の萌芽研究	10	8,800	2,640			
挑戦の研究(開拓)				0	0	0
挑戦の研究(萌芽)				1	700	210
若手研究 (A)	4	14,400	4,320	0	0	0
若手研究 (B)	25	19,900	5,970	17	26,200	7,860
研究活動スタート支援	3	3,200	960	0	0	0
特別研究員奨励費	3	3,100	390	4	4,300	720
合計	104	116,750	34,485	64	120,500	35,580



# Notice

生涯学習・公開セミナー等

## 生涯学習・公開セミナー等

### 慈恵医大生涯学習センター

#### 慈恵医大 生涯学習セミナー

月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育制度参加証」を交付します。

#### 月例セミナー

● 開催日時 第2土曜日(休日を除く)  
16:00~18:00(但し、1月、8月、  
10月、12月を除く)

● 場所 附属病院(本院)  
中央棟3階会議室

#### 第244回

月日 平成30年2月10日(土)

テーマ 乾癬性関節炎の診断と治療

演者 皮膚科 中川 秀己 教授

#### 第245回

月日 平成30年3月10日(土)

テーマ 誤嚥性肺炎について

演者 呼吸器内科 中山 勝敏 准教授

#### 第246回

月日・時間 平成30年4月14日(土) 16:00~17:00

テーマ フレイルになると何が悪い?

演者 リハビリ科 佐々木 信幸 准教授

月日・時間 平成30年4月14日(土) 17:00~18:00

テーマ フレイルになるのは栄養が悪い!

演者 栄養部 福土 朝子 栄養士

#### 第247回

月日・時間 平成30年6月9日(土) 16:00~17:00

テーマ 皮膚悪性腫瘍の診断と治療

演者 皮膚科 延山 嘉真 准教授

月日・時間 平成30年6月9日(土) 17:00~18:00

テーマ 痛みの疾患(骨粗鬆症・関節症)の同時治療のロジックとは  
—生活習慣病は要注意—

演者 整形外科 齋藤 充 准教授

注)内容を変更することもあります。

お問合せ先:生涯学習センター

TEL : 03-3433-1111(大代表)内線2634

### 慈恵医師会

#### 慈恵医師会産業医研修会

平成30年度は、6月に開催します。

(主催)慈恵医師会 (共催)東京都医師会

お問合せ先:慈恵医師会

TEL : 03-3433-1111(大代表)内線2636



←最新情報はこちら

### 附属病院(本院)

#### 平成29年度地域がん診療連携拠点病院事業 市民公開講座

● 開催日時 平成30年2月24日(土)  
14:00~16:00

● 場所 東京慈恵会医科大学  
1号館5階講堂

お問合せ先:管理課

TEL:03-3433-1111(大代表)内線5150

### 葛飾医療センター

#### 公開セミナー

● 開催時間 14:00~15:30

● 場所 葛飾医療センター 5階講堂

#### 第48回

月日 平成30年2月10日(土)

テーマ 手足のしびれ...どうしていますか?  
食べているのに低栄養?高齢者の食事

演者 神経内科 森田 昌代 診療医長  
栄養部 吉田 久子 課長

お問合せ先:管理課

TEL : 03-3603-2111(大代表)内線5911

### 第三病院

#### 第82回 公開健康セミナー

● 開催日時 平成30年1月13日(土)  
14:00~15:30

● 場所 看護学科1階 大講堂

テーマ こうすれば心配いらない 高血圧と腎臓病

演者 腎臓高血圧内科 宮崎 陽一 診療部長

#### 第83回 公開健康セミナー

● 開催日時 平成30年3月17日(土)  
14:00~15:30

● 場所 看護学科1階 大講堂

テーマ 手術で治せる認知症  
~認知症の早期発見と正しい理解のために~

演者 脳神経外科 石井 卓也 診療部長代行

お問合せ先:管理課

TEL : 03-3480-1151(大代表)内線3712

## 寄付のお願い

### 創立百三十年記念事業募金の御礼とご協力をお願い

学祖・高木兼寛先生は明治14年5月1日(1881)に、東京慈恵会医科大学の前身である成医会講習所を開設しました。成医会講習所開設以来130余年の間、質の高い医療人を育成し、医療を通して社会に貢献するとともに、医療を支える研究の振興に努めてまいりました。

この間、医療は高度・専門分化し、それに対応する専門医を育成するとともに、一方では総合的診療能力を備えた医師の育成が求められています。本学の使命を果たすためには、教育・研究施設の改善・充実を図り、附属病院の施設整備を行うことが喫緊の課題です。

本学は大学の教育研究施設の他に4附属病院を有しており、長・中期計画を立ててこれらの施設の整備を行っています。これまで、平成12年(2000)には本院中央棟を、平成14年(2002)には大学1号館を完成させました。更に、平成24年(2012)には東京慈恵会医科大学葛飾医療センターを開院し順調に運営されています。

また、本院外来棟は開設以来50年を超え、病院の老朽化が進み手狭になっています。中央棟に隣接して外来棟を建て、患者さんの利便性を図るとともに、東京都から借用した隣地を活用して、病院と大学の建物を整理し、機能的なキャンパスに整備する建築計画が昨年2月から実施され、現在計画が順調に進捗しています。本年6月には港工業高校跡地に2号館が竣工しました。また、9月には新外来棟(仮称)の建設用地となる、大学本館等既存建物の取壊しが開始されました。その後順次、国領キャンパス、第三病院の整備が進められます。これらの基盤整備には莫大な資金が必要となり、大学も自助努力を重ねておりますが、資金の調達には限界があります。

本学の将来計画と学祖の建学の精神にご賛同賜り、これまで関係各方面から心温まるご支援をいただきました。ご協力下さいました方々の温かいご芳志に厚くお礼申し上げます。我々の使命を果たすためにさらに一層の努力をしてまいりますので、引き続き関係各位の全面的なご協力を心よりお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏

### 創立百三十年記念事業募金寄付者名簿

#### ● 同窓生

(医)アスピオス鳥取産院  
飛鳥田 富美江  
後藤 和利  
戸澤 満智子  
中島 茂基  
中島 正良  
中田 理  
永野 剛蔵  
原田 真人  
松本 文夫

#### ● 同窓会支部会・クラス会

同窓会愛媛支部  
昭62卒同窓会  
昭和42年卒クラス会  
平成9年卒業生一同

#### ● 父兄会

石田 匡  
和泉 達也  
加藤 裕二  
早矢仕 雅之  
藤橋 忠悟  
三平 将彦  
宮本 浩一

#### ● 企業

(株)慈恵実業

#### ● 一般個人

下東 逸郎  
杉田 憲治

#### ● 教職員

池田 雅人  
栗原 敏

・平成29年5月1日～平成29年10月31日までに頂いたご寄付  
・ご芳名は敬称を省略し、五十音順に掲載しました。



### 学校法人 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に

貢献します。

5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

### 学校法人 慈恵大学 行動規範

#### (目的)

第1条 慈恵大学(以下「大学」という)が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

#### (基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

#### (法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

#### (人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

#### (取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

#### (反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

#### (過剰な接待接受の禁止)

第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の接受を禁止する。

#### (環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

#### (公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

#### (日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。

#### (虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

#### (教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

#### (告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口にて提案することができる。

2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

#### (監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

#### (違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

#### 附 則

1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。
2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

## 医療連携窓口のご紹介

本学附属病院では、紹介・逆紹介など循環型地域完結型医療を推進し、  
地域の先生方との密なる医療連携を目指します。  
患者さんをご紹介頂く際は、各病院の担当窓口までご連絡をお願い致します。



### 附属病院(本院)

患者支援・医療連携センター 医療連携室



〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18  
TEL 03-3433-1111 (代表) 内線5099  
FAX 03-5401-1879 (直通)



### 葛飾医療センター

入退院・医療連携センター 医療連携室



〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2  
TEL 03-3603-2111 (代表) 内線5145  
FAX 03-3690-7474



### 第三病院

総合医療支援センター 医療連携室



〒201-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1  
TEL 03-3480-1151 (代表) 内線3804、3830  
FAX 03-3430-3611



### 柏病院

患者支援センター 医療連携部門



〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1  
TEL 04-7164-1111 (代表) 内線2158  
FAX 04-7164-1197





## 渋沢栄一

(1840～1931年)



はじめ大蔵省の官僚であった渋沢は、財政問題を巡って大久保利通や大隈重信と対立し、明治6年(1873)に井上馨とともに下野した。その直後、第二国立銀行(現・みずほ銀行)の頭取に就任し、実業界でのキャリアをスタートさせる。それ以降、金融機関だけでなく、さまざまな業種の会社の起業に携わり、その数は500社を超え、「日本資本主義の父」ともいわれている。また、彼は「私利を追わず公益を図る」という理念を貫き、絶えず公共への奉仕を心がけていた。それほど数多くの会社に携わりながら、決して財閥を作らなかつたところに彼の思想がよく表れている。

## 編集後記

西新橋キャンパスでは、昨年6月末に2号館が竣工し、各医局のラボを集約した臨床ラボといった新しい活動が始まりました。言うまでもなく、臨床は本学の特徴の一つであり、これからもその充実を図っていきます。

一方、最高学府として、研究分野で日々研鑽を積むことも重要な役割です。本号の特集で取り上げた腎臓再生への取り組みは、日々の研究活動がもたらした画期的な成果であり、腎臓を患った方々に、今後大きな希望をもたらすものとして注目されています。

私たちは、こうした臨床と研究の両立が、最高の医療を提供していく医科大学としての慈恵の使命の一つと考えています。本誌では皆さんと価値観と方向性を共有することを目的に、これからも変わりつつある本学の姿をお伝えしていきます。より役立つ法人誌にするために、是非、本誌をご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

大学広報委員会委員長 穎川 晋

発行 学校法人 慈恵大学  
 発行人 理事長 栗原 敏  
 連絡先 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8  
 学校法人 慈恵大学 広報課  
 TEL 03-3433-1111(大代表)  
 FAX 03-5400-1281  
 e-mail koho@jikei.ac.jp  
 号数 第30号  
 発行日 2018年2月1日

<http://www.jikei.ac.jp/>